

作業学習

目 次

○ 指導計画作成の立場	257
○ 中学部題材一覧表	259
○ 高等部題材一覧表	260
○ 中学部指導計画	
・ 農 耕	261
・ 窯 業	266
・ 木 工	269
・ 紙工・縫製	272
・ 共 通	275
○ 高等部指導計画	
・ 農 耕	276
・ 窯 業	280
・ 木 工	283
・ 手 芸	285
・ 印 刷	288
・ 共 通	293

1 指導計画作成の立場

(1) 基本的な考え方

作業学習は、作業を学習活動の中心にすえ、将来の社会参加につながる働く力ないし生活する力を高めることを意図している。このことは職業生活及び家庭生活に必要な基礎的、基本的知識、技能を身に付けさせるとともに、勤労を重んずる態度を養い、進んで社会生活に参加していく能力を培っていくことである。

本校では、可能な限りの社会生活への自立を目指し、基本的生活習慣の確立を図るとともに身の周りの人や物とのかかわり合いを大切にしながら、特に勤労を重んずる態度面を重視する。あわせて職業生活や家庭生活に必要な基礎的・基本的知識、技能を身に付けさせるとともに、心豊かでたくましく生きる人間の育成に努めることを作業学習のねらいとする。

作業学習は、児童生徒の心身の障害の状態及び特性等を十分考慮して、実際の作業活動場面では児童生徒の関心の高い、自分たちの生活とかかわりの深い、より現実度の高い製品を作ることを経験させることによって成就感、満足感といった自己実現の喜びを味わわせることができる。そして、このような作業活動の特性を生かしながら、将来、可能な限り自立的に社会参加させるために、総合的な活動、具体的で実際の活動の作業内容を準備して、身辺処理や健康安全、対人関係などといった社会生活に関する基本的なことを身に付けさせていく。これらの学習活動を通してかかわり合いも豊かになり、社会で自立的に生活できる力を身に付けさせていくことができると考える。

なお、小、中、高の一貫性を通した指導の立場から、各学部における作業学習の扱いについては次のように考える。

① 小学部の考え方

作業学習の時間は特設しないが、日常生活の指導、生活単元学習、教科等の全教育活動の中で、道具に触れさせたり、身体全体や手指を使う活動を経験させたりするとともに、役割分担をしたり、みんなと一緒に活動させたりする中で、仲間と協力し合う場を多く設定しながら、最後まで頑張り通す態度を養う。また、身辺生活の処理に関する基本的生活習慣の確立を図り、中学部の作業学習への準備段階となるように配慮する。

② 中学部の考え方

中学部では、作業学習を教育課程の中核的な指導の形態の一つとして位置付け、生徒の活動欲求や社会的意識の芽生えなどを大切にしながら、作業に対する興味・関心を高めるとともに作業に積極的に参加する態度を養っていく。具体的には、学年を解いたコース別に行う作業学習と全体で行う共通の作業学習によって編成する。

コース別作業学習においては、3年間を通していろいろな作業種目を経験させることで、完成の喜びを味わわせ作業に対する興味・関心を高めていく。そして、個に応じた作業内容を準備することで、進んで取り組んだり協力して根気強く取り組んだりする態度や基礎的な知識・技能を養っていく。また、共通作業学習においては、外部からの下請け作業を取り上げ、報告や確認などの基礎的な作業態度や最後まで作業をやり通す態度を養っていくとともに仕事の厳しさにも触れさせていく。

さらに、校内実習や現場実習を通して、より実地的な作業や働く生活を経験させることで働くことへの意識を高め高等部の作業学習への移行とする。

③ 高等部の考え方

高等部では、作業学習を教育課程の中核として位置付け、将来の職業生活及び社会生活に可能な限り自立するのに必要な知識・技能・態度を培っていくことをねらいとして、次のような取り組みをしている。

年間を通して同じ班員で活動するコース別作業学習では、役割意識や目的意識を持たせ、より現実度の高い製品作りに取り組ませる中で、働くことの厳しさや大切さ、喜び等を味わわせる。また、共通作業では、校内の清掃活動など、全員で同じ活動に取り組ませる中で、奉仕の精神を養う。これらの作業学習を通して、勤労を重んじる態度を育て、働くことに対する態度や技能の向上を図り、働くことへの意欲を高めていく。

実際の作業学習では、個々の発達段階、作業能力、経験、興味・関心等に十分配慮し、作業工程を細かく分析して個に応じた作業分担を行い、流れ作業等を取り入れていく。また、製品を使ってくれる人との関係を考える中で社会へも目を向けさせ、自分の作業の意義や価値について気付かせていく。さらに、一定期間継続して行う校内実習や現場実習を通して、これまで身に付けてきた働く態度や習慣をより確実なものに発展させていく。

(2) 目 標

- 作業活動を中心とする实际的、現実的な経験や集団でのかかわり合いを通して、最後まで仕事を果たす習慣を身に付けさせ、勤労を重んずる態度を養い、進んで社会生活に参加していく能力を培う。
- 総合的な作業活動、具体的で实际的な作業活動を通して、家庭生活及び社会生活に必要な身辺処理・指示理解等の生活処理能力を高めるとともに、基礎的・基本的な知識、技能を身に付けさせる。

(3) 指導計画作成上の配慮事項

- ① 中学部では、全員で行う共通作業と、農耕、窯業、木工、紙工・縫製の4つのコース別作業を設定し、指導計画を作成した。

高等部では、共通作業とコース別作業としての農耕、窯業、木工、印刷、手芸の5つのコースを年間を通したコースとして設定し、指導計画を作成した。

- ② 過当たりの時数は、中学部では7時間（コース別…4時間、共通作業…3時間）、高等部では12時間（コース別…10時間、共通作業…2時間）とし、年間を35週で算定して題材に応じて時数配当した。なお、この外に中学部では現場実習を1週（3年生のみ）、校内実習を2週設定し、高等部では校内実習、現場実習を前期4週、後期4週、計8週設定している。

2 活用上の留意点

- (1) 各学部の指導計画の始めに各作業種目での年間の題材配列を一覧表としてまとめている。
- (2) 教科、特別活動、道徳及び養護・訓練や領域・教科を合わせた指導の形態とを関連付けて活用する。
- (3) 学習の展開については、個々の能力や特性に応じて細案化する。
- (4) 指導内容については、学習グループの実態や生徒の能力に即応して弾力的に活用する。

中学部作業学習年問題材一覧表

月 コース	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
農 耕	春まき野菜の栽培										
	春まき草花の栽培										
	さつまい				もの栽培						
					秋まき				野菜の栽培		
窯 業					秋まき				草花の栽培		
	メダルの製作				花器の製						
					作				小物の製作		
木 工	壁掛けの製作				花びんしきの				製作		
					本立ての製作						
紙工・縫製	きんちゃく袋の製作				手すきはがき				の製作		
共通作業											
	穴うめ作業										

高等部作業学習年問題材一覧表

月 コース	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
農	春まき草花の栽培	前	前			後	後	秋まき草花の栽培			
耕	春まき野菜の栽培							秋まき野菜の栽培			
窯	型作りによる製作	期	期	機械ろくろに	よる製作	期	期	鑄込みによる	製作	機械ろくろによる製作	
業											
木	うに箱の	校	現	製作	コースター	現	校	の製作			
工											
手	ぞうきん	内	場	の製作	染色による小物	場	内	の製作	織り物の製作		
芸											
印	用せんの 名刺の製作	実	実	製作	賞状の製作	実	実	用箋の製作			
刷								年賀状の製作			
共通作業	校内の除草	習	習	校内の除草	校内の降灰除去	習	習	シルクスクリーン	による製作	校内の除草	
	さつまいもの栽培 簡単な調理			簡単な調理	さつまいもの栽培			校内の降灰除去			
					校内の清掃			簡単な調理			
								(随時)			

中学部 農 耕 コ ー ス

題 材	春まき野菜の栽培	月（時数）	4～10月（16時間）	
目 標	○ 春まき野菜の種まき、鉢上げ移植、定植、栽培管理、収穫などの作業を通して、野菜栽培の基礎的な知識、技能を身に付けさせるとともに、みんなと協力して栽培し収穫する喜びを味わわせる。			
主な学習活動・内容		留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 春まき野菜の栽培について話し合う。 ・ きゅうり ・ へちま ・ 落花生		・ 夏や秋に食べる野菜について思い出させ、春まき野菜と大まかな栽培手順について知らせ、栽培への意欲と見通しを持たせる。	・ 野菜実物 ・ 栽培計画表 ・ ふるい	家 4-10
2 種まきをする。 ・ 土作り ・ ビニール鉢準備 ・ 種まき		・ 土作りから取り組ませる。ふるい掛けなど2人で取り組む作業を取り入れる。 ・ ビニール鉢に直接種をまくようにする。	・ 種 ・ 土 ・ ビニール鉢	職 4-7, 3, 15
3 育苗の管理をする。 ・ 水かけ ・ 除草等		・ 水まきは、係を決めて毎日行わせるようにする。	・ じょうろ	生・自 3-2 道 1-2
4 定植をする。		・ 株間については基準棒等を用いる。穴の掘り方、苗の植え方、土のかぶせ方等について十分に理解させる。	・ 基準棒 ・ 移植ごて	算 4-5
5 定植後の管理をする。 ・ 水かけ ・ 除草 ・ 追肥		・ 苗と雑草の違いに気付かせ、間違えないで抜かせるようにする。	・ 除草補助具 ・ 肥料	
6 収穫をする。 (1) 取り入れをする。 (2) 袋詰めをする。 (3) 出荷する。		・ きゅうりについては、自宅に持ち帰らせるが、へちまは繊維状になるまで収穫を待つ。 ・ 落花生については、はかりを用いて袋詰めをさせる。 ・ 袋詰めした作物を、別の作業コースの友達や身近な人々に配らせ、感謝されることで働くことの喜びを感じ取らせるようにする。	・ 一輪車 ・ ビニール袋 ・ はかり	数 4-5 職 4-20
7 農具の整備をする。		・ 作業場の整理も行わせる。	・ 農具類	国 4-5 道 4-4 道 2-2
8 春まき野菜栽培の反省をする。				職 4-14

題 材	春まき草花の栽培	月 (時数)	4～7月 (20時間)
目 標	○ 春まき草花の栽培を通して、育苗の基礎的な知識、技能を育てるとともに、草花に対する興味・関心を高め、植物を育て愛する気持ちや態度を培う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 春まき草花の栽培について話し合う。 (1) 苗の種類を決める。 ・サルビア ・マリーゴールド ・日々草等 (2) 栽培計画を立てる。 2 種まきをする。 (1) 育苗箱を準備する。 (2) 床土を入れる。 (3) 種をまく。 3 鉢上げ移植をする。 (1) 苗を抜く。 (2) ビニール鉢に土を入れる。 (3) 植え付けをする。 4 育苗の管理をする。 ・ 水かけ ・ 除草 5 定植をする。 6 定植後管理をする。 ・ 除草 ・ 追肥 7 春まき草花の栽培の反省をする。	・ 秋の学級園等を彩る様々な春まき草花の図鑑やスライドを見せることで、題材への意欲を高める。 ・ 栽培計画表等で全体的な学習活動の見通しを持たせるようにする。 ・ 床土に使う土については、ふるい掛けの段階から取り組ませる。協力させながら仲間意識を育てるようにする。 ・ 種がまんべんなくまけるように、砂と混ぜ合わせるなど工夫させる。 ・ 移植の手順について知らせ、いろいろな作業を分担させることで、生徒の得意な作業内容等について把握する。培養土に使う腐葉土は自分たちで作ったものを使わせ、土作りの大切さに気付かせる。 ・ 水かけは係を決めて、継続的に行わせる。 ・ 学級活動等の時間に級友とともに学級園に植えることで、農耕コースの仕事を認めてもらえるようにする。 ・ 苗と雑草を間違えて抜いてしまわないように、違いを十分に指導してから活動させる。 ・ 農具の整備等も行わせる。	・ 図鑑 ・ スライド ・ 種袋 ・ 栽培計画表 ・ 育苗箱 ・ ふるい ・ パーミキュライト ・ 種 ・ ビニール鉢 ・ じょうろ ・ 腐葉土 ・ 一輪車 ・ 移植ごて ・ 肥料 ・ 農具類 ・ 種	生・自 9-2 理 4-8 職 4-2 職 4-3 職 4-7 職 4-11 道 3-(1), (2) 道 4-6 職 4-14 道 3-2

題 材	秋まき草花の栽培	月（時数）	9～3月（28時間）
目 標	○ 秋まき草花の栽培を通して、花栽培の基礎的な知識・技能を育てるとともに、草花に対する興味・関心を高め、植物を大切に育てあげる態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 秋まき草花の栽培について話し合う。 (1) 草花の種類を調べ、栽培する草花を決める。 ・ パンジー・ 葉ばたん ・ きんせんかなど (2) 栽培計画を立てる。 ・ 成育過程と作業内容 2 種まきをする。 (1) 育苗箱を準備する。 (2) 床土を入れる。 (3) 種子をまく。 3 育苗の管理をする。 ・ 水かけ ・ 温度管理 4 鉢上げ移植をする。 (1) 苗を抜く。 (2) ビニール鉢に土を入れる。 ・ 土の種類、性質 (3) 植え付けをする。 5 栽培管理をする。 ・ 水かけ ・ 温度管理 6 定植をする。 7 落ち葉拾いをする。 (1) 使う道具や場所について話し合う。 (2) 落ち葉拾いに行く。 (3) 腐葉土作りをする。 8 農具の手入れや整備をする。 9 秋まき草花の栽培について反省する。	・ 草花には、春まき、秋まきなどの種類があることに気付かせ、秋まき草花にはどのようなものがあるかを発表させる。 ・ 時期、場所、成育管理の面を考慮しながら、栽培品種を決めさせる。 ・ 浸種は、前日にしておく。 ・ 育苗箱は、一人一人に与え、種まきから管理まで、各々が責任を持って行うようにさせる。 ・ 温度の管理についてはビニールハウスで調節する。 ・ 生徒の特性に応じた作業分担を工夫する。 ・ 自分たちで作った腐葉土を利用し、土作りの大切さに気付かせる。 ・ 移植の際の苗の取り扱いについては、傷めないように十分注意させる。 ・ 学級活動等の時間に級友とともに植えることで自分たちの仕事が認めもらえるようにする。 ・ 昨年の経験を想起させ、近くの山に落ち葉があることや、必要な用具に気付かせる。 ・ 安全に気を付け作業させる。 ・ 石灰、肥料と落ち葉を交互にのせ、水をかける。 ・ 整備しやすいように棚に用具名を書いておく。	・ スライド ・ 図鑑 ・ 種袋 ・ 栽培計画表 ・ 種 ・ 育苗箱 ・ 用土 ・ パーミキュライト ・ じょうろ ・ ふるい ・ 土 ・ 鹿沼土 ・ 腐葉土 ・ ビニール鉢 ・ スコップ ・ じょうろ ・ ビニール鉢 ・ リヤカー ・ 熊手 ・ 石灰 ・ 肥料 ・ 水	生・自 3-2 理 4-8 道 4-(6) 職 4-1, 3 17 道 1-(3) 職 4-4～5 職 4-15 道 3-(1) 道 3-(2) 職 4-15 職 4-7 職 4-13 ～14 職 5-2

題 材	秋まき野菜の栽培	月（時数）	9～6月（40時間）	
目 標	○ 秋まき野菜の種まき，移植，定植，栽培管理，収穫などの基礎的な知識・技能を身に付けさせるとともに，栽培と収穫の喜びを味わわせ，みんなと協力して最後まで作業を成し遂げる態度を養う。			
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 秋まき野菜の栽培について話し合う。 ・ 玉ねぎ ・ ほうれん草 ・ キャベツ ・ レタス ・ 春菊 ・ 大根など		・ 今までの栽培経験を想起させ，秋まき野菜と大まかな栽培手順について調べ，栽培への意欲と見通しを持たせる。	・ 野菜実物 ・ 栽培計画表 ・ 種 ・ ふるい	生・自 3-2 理 4-8
2 種まきをする。		・ 種まきの時期に気を付けさせる。	・ 育苗箱	道 1-(3)
3 鉢上げ移植をする。		・ 生徒の特性に応じた作業配置を考える。	・ ビニール鉢	職 4-1～2
4 定植をする。 (1) 畝作りをする。 (2) 苗を植える。 ・ 苗の深さ，株間		・ 畝作りのときは，畝の間隔に注意させる。 ・ 株間については基準棒を用いる。 ・ 手入れは，除草と追肥が中心になることに気付かせる。	・ 土 ・ 移植ごて ・ 基準棒	職 4-15, 14 数 4-5
5 栽培管理をする。 ・ 水かけ ・ 追肥 ・ 除草 ・ 成長の観察 ・ 間引き		・ 玉ねぎを数個掘り起こし，成長の過程を分からせる。	・ 除草補助具 ・ 肥料 ・ くわ	道 3-(1) 生・自 3-2
6 収穫をする。 (1) 取り入れをする。 (2) 袋詰めをする。 ・ 1kgずつの袋詰め		・ レタスやキャベツ，ほうれん草などは古葉を落とさせる。 ・ 玉ねぎについては葉のついたまま乾燥させておく。 ・ レタスやキャベツは水洗いし，見本を基に袋詰めを各自行わせる。	・ 一輪車 ・ カッターナイフ ・ ビニール袋	道 4-(4) 職 4-21 数 2-8 職 4-23
7 附養まつりへの出品や出荷をする。		・ レタスやほうれん草は，みんなで運び，出品することへの意識を高める。	・ はかり ・ リヤカー	数 4-5 職 4-20, 24
8 秋まき野菜栽培の反省をする。 ・ 畑の整地 ・ 農具の点検 ・ 反省と感想		・ 作業場の整理も行わせる。		職 5-2 職 4-13 ～14

題 材	さつまいもの栽培	月（時数）	6～10月（40時間）
目 標	○ さつまいもの栽培を通して、栽培への関心を持たせるとともに、栽培から出荷までの過程を通して生産することの喜びを味わわせ、働くことに対する意欲を育てる。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 さつまいもの栽培について話し合う。 (1) 昨年の経験を発表する。 (2) どのような作業手順が必要か話し合う。 2 定植をする。 (1) 畝作りをする。 (2) 苗を植える。 ・ 苗の深さ、株間 (3) 水かけをする。 3 栽培管理をする。 ・ 水かけ ・ 追肥 ・ 除草 4 収穫をする。 (1) さつまいものを掘る。 (2) 袋詰めをする。 5 出荷する。 6 さつまいもの栽培を反省する。 ・ 農具の整理、反省と感想	・ さつまいもの種類や利用の仕方について発表させる。 ・ 植え付け準備から出荷までの大まかな流れをつかませる。 ・ 肥料や畝作りの必要性について気付かせる。 ・ 植え込んだ苗が畝からはみ出さないように注意させる。 ・ 株間については基準棒を用いる。 ・ 水かけはたっぷりとさせる。 ・ 個別に畝を割り当て、作業に対する責任感を持たせ意欲を高める。 ・ かまやくわの取り扱いには十分配慮する。 ・ いも掘りは、学部全員で取り組み、収穫の喜びを味わわせる。 ・ いもを傷付けないように丁寧に扱わせる。 ・ はかりの目盛りに印を付けたりして、1kgごとに袋に入れられるようにする。 ・ 別の作業コースの友達や身近な人々に配り、感謝されることで働くことの喜びを感じ取らせるようにする。	・ 栽培計画表 ・ 絵カード ・ くわ ・ 一輪車 ・ 肥料 ・ ロープ ・ 巻き尺 ・ 基準棒 ・ くわ ・ 肥料 ・ かま ・ 一輪車 ・ はかり ・ ビニール袋 ・ 一輪車	生・自 3-2 職 4-1～2 職 4-12 職 4-14 数 4-5 職 4-3 道 1-(3) 道 4-(4) 道 3-(1) 職 4-9, 15 17 数 4-5 職 4-20 職 4-24 職 5-2 職 4-13 ～14

中学部 窯業コース

題 材	メダルの製作	月(時数)	4～7月(44時間)
目 標	○ メダルの製作の一連の作業を通して粘土や用具の扱いに慣れさせるとともに、作る喜びを味わわせ、窯業作業への興味・関心を持たせる。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 メダルの製作について話し合う。 (1) メダルの用途について話し合う。 (2) 材料や用具について調べる。 ・ 材料や用具の名称 ・ 用具の使い方 (3) 製作過程について知る。	・ 自分たちの作ったメダルが、運動会での参加賞になることを理解させ、製作への興味・関心を持たせる。 ・ 材料や用具は実際に触れさせたり、使用させたりして名称、使い方について理解を深めさせる。 ・ 土からメダルができるまでの過程を作業工程表とともに実物を用いたり、実際に作業させたりして理解させ、作業への見通しを持たせる。	・ 粘土 ・ メダル ・ 粘土板 ・ 石こう型 ・ ひも	職 4-1, 2 職 4-12
2 メダルを製作する。 (1) 型作りをする。 ・ 粘土による型の形成 ・ 石こう取り (2) 型作りによる形成をする。 ・ 粘土の打ち込み ・ 切断 ・ 型はずし (3) ペーパーがけをする。 (4) 素焼きをする。 (5) 釉がけをする。 (6) 本焼きをする。	・ 生徒各自に好きなメダルの型を製作させることにより、製作への愛着を持たせメダル作りへの白覚と意欲を高める。 ・ 粘土の打ち込み方、切断の仕方、型のはずし型など適時指導するとともに、粘土や製品の扱い方についても丁寧に行うよう心掛けさせる。 ・ 個々の生徒の実態に応じて補助具を使わせたり、援助したりして自分で製作する喜びを味わわせる。 ・ 釉薬を選んだり、絵付けをしたりなど生徒に選択させ、製品作りの楽しさを味わわせる。	・ 作業工程表 ・ 釉薬 ・ 石こう ・ 枳板 ・ 製品整理板 ・ 補助具 ・ サンドペーパー ・ 釉薬 ・ 筆	美 4-4 道 4-(4) 職 4-21, 27 職 5-3 職 4-6
3 製品の整理をする。	・ 製品にリボンを付けさせたり、箱に整理させたりしながら自分たちの作った製品の用途について理解させる。	・ 製品 ・ リボン ・ 箱	職 4-20, 14 23, 31
4 学習のまとめと反省をする。			

題 材	花 器 の 製 作	月 (時数)	9～12月 (52時間)
目 標	○ 花器の製作を通して、粘土や用具の扱い方における、切る、のばす、接合するなどの基礎的な技能を高めるとともに、自分の役割が分かり、最後までやり遂げようとする態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 花器の製作について話し合う。 (1) 色々な形の花器を調べ、作る花器を決める。 (2) 作業工程表を作る。 (3) 製作方法を調べる。 2 花器を製作する。 (1) 板作りによる形成をする。 ① 個人製作をする。 ② 分担製作をする。 ・ 粘土のたたき作り ・ 側板作り ・ 底板作り ・ 組み立て (2) ペーパーがけをする。 (3) 素焼きをする。 (4) 釉がけをする。 (5) 本焼きをする。 3 製品の整理をする。 4 学習のまとめと反省をする。	・ 色々な花器の見本を見せたり、用途について考えさせたりするとともに、附養祭りに出品することを知らせ、製作意欲を喚起する。 ・ これまでの経験を基に、大まかな作業内容を考えさせて工程表を作り、製作への見通しを持たせる。 ・ 形成方法は、具体的に作って見せて理解させるとともに、形成の一連の過程を生徒各自にも行わせ、製作への見通しを持たせると同時に個々の生徒の特性等を把握する。 ・ 個々の生徒の技能面、作業量等の実態を考慮し、作業内容を分担する。 ・ 個々の生徒の実態に応じて補助具を使わせたり、援助したりして自分で製作できるようにする。 ・ 製品の善し悪しに注意を向けさせながら、製品を壊さないよう丁寧に作業することを理解させる。 ・ 釉薬選び、絵付け等を行わせ、生徒たちの素朴な表現を生かし、製品作りの喜びを味わわせる。 ・ 自分たちの製作した製品を附養まつりに出品することについて考えさせ、製品の行方や商品についての意味も理解させる。	・ 花器見本 ・ 粘土 ・ 作業工程表 ・ 粘土板 ・ へら ・ 型ベニヤ ・ たたら板 ・ ひも ・ ドベ ・ 分担表 ・ 補助具 ・ サンドペーパー ・ 釉薬 ・ 筆 ・ 製品 ・ 値札	職 4-1, 2 職 4-1, 12 職 4-3, 12 美 4-9 職 4-7, 8 職 4-9, 11 道 4-(1) 職 4-21, 27 職 4-14, 23 24 道 4-(4) 社 4-25

題材	小物の製作	月(時数)	1～3月(36時間)	
目標	○ 身近な小物の製作を通して、粘土や用具の扱い方などの基礎的な技能を身に付けさせるとともに、友達と協力して最後まで根気強く作業をしようとする態度を養う。			
主な学習活動・内容		留意点	準備	関連内容
1 小物の製作について話し合う。 (1) 身の回りの色々な小物を調べ、作る小物を決める。 ・ 壁飾り、土鈴、鳩笛 など (2) 製作方法を調べる。 ・ 板作り ・ ひも作り ・ ボール作り ・ 手びねり ・ 型作り (3) 作業工程表を作る。		・ 参考作品を数種類準備し、用途や色等について理解させるとともに、自分の身の回りの陶製の小物についても考えさせ、製作意欲を喚起する。 ・ いくつかの小物を実際に製作させ、形成の方法を経験させるとともに、作りたい小物を明確にさせていく。 ・ これまでに経験した形成方法も参考にさせ、製作の方法について考えさせる。 ・ 生徒の発想をできるだけ取り入れた製品にするために話し合い、計画を立てる。 ・ これまでの経験を基に、作業内容を考えさせて工程表を作り、製作への見通しを持たせる。	・ 参考作品 ・ 粘土 ・ 粘土板 ・ たたら板 ・ 石こう型 ・ へら ・ ナイフ ・ ドベ ・ 筆 ・ 作業工程表 ・ 分担表	美 4-13 職 5-1 美 4-9 美 4-12 職 4-3 道 4-(1) 職 4-4, 6 職 4-7, 9 職 4-12, 21
2 小物を製作する。 (1) 分担して形成をする。 (2) ペーパーがけをする。 (3) 素焼きをする。 (4) 釉がけをする。 (5) 本焼きをする。		・ 個々の生徒の技能面、作業量等の実態を考慮し、作業内容を分担するとともに、できるだけ多くの経験ができるよう適時作業内容をローテーション化する。 ・ 個々の生徒の実態に応じて補助具を使わせたり、援助したりして自分で製作できるようにするが、個々の特性も生かした製品の味わいも失わないようにしていく。	・ 補助具 ・ サンドペーパー ・ 釉薬 ・ 筆	職 4-14, 27
3 製品の整理をする。		・ 製品の使途についても考えさせ、自分たちの製作した製品が生活に役立つ喜びを感じさせる。	・ 製品	道 4-(4)
4 学習のまとめと反省をする。			・ ひも	

中学部 木 工 コ ー ス

題 材	壁 掛 け の 製 作	月 (時数)	4 ～ 7 月 (44時間)
目 標	○ 壁掛けの製作を通して、材料や木工具の基礎的な取り扱いに慣れさせるとともに、木工作業への興味・関心を高め、進んで作業に参加する態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 壁掛けの製作について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 身近ないろいろな木製品を提示することで、木工作業への興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 壁掛けの見本 	職 4-1, 2, 3 美 4-10
(1) 壁掛けについて知る。 <ul style="list-style-type: none"> 材料, 材質 製作工程 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに製作したいろいろな壁掛けの見本を見せ、製作意欲を喚起するとともに、形や用途についても調べさせる。 		
(2) 製作の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> 製作工程 作業日程 必要な機械や工具調べ 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を中心とした製作工程表や各部門の標本を用意し、製作意欲を高め見通しを持たせる。 製作に必要な工具名だけでなく、安全な取り扱いについても十分に扱う。 製作に当たっては一人で全工程を経験させ見通しを持たせた後、分担作業する。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作工程表 工具 	職 4-12 職 4-5, 6, 7, 8, 9, 10
2 製作する。			
(1) 材料どりする。 <ul style="list-style-type: none"> けがき のこぎりびき 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の発想を生かして形を決めさせることで作ることへの意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本, 写真 両刃のこ 	美 4-12 数 4-5 5-4
(2) 部品加工をする。 <ul style="list-style-type: none"> 糸のこ ペーパーがけ 	<ul style="list-style-type: none"> 糸のこは刃が折れやすいので、しっかり抑え、ゆっくり押すようにさせる。 ペーパーをかける際は荒い目から順にかけるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 糸のこ ペーパー 	職 4-17, 19 道 4-(1), (4)
(3) 塗装をする。 <ul style="list-style-type: none"> 色塗り ニス塗り 	<ul style="list-style-type: none"> 揮発性の強い塗料を使用するときは、室内の換気に十分注意させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 塗料 はけ 	美 4-11 職 4-23,
(4) ひもを付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 長さに注意しながら付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ひも 	24, 25
3 まとめと反省をする。			
<ul style="list-style-type: none"> 反省 道具の手入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 手入れ後、所定の場所に格納させる。 		数 4-1 5-1 道 2-(2)

題 材	花びんしきの製作	月 (時数)	9～12月 (52時間)
目 標	○ 花びんしきの製作を通して、木工作業の基礎的な知識、技能を身に付けさせるとともに、自分の作業分担が分かり、最後まで作業をやり遂げようとする態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 花びんしきの製作について話し合う。</p> <p>(1) 花びんしきについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料, 材質 ・ 製作工程 <p>(2) 製作の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製作日程 ・ 作業日程 ・ 必要な機械や工具調べ <p>2 製作する。</p> <p>(1) 材料どりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けがき ・ のこぎりびき <p>(2) 部品加工をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下穴あけ ・ ペーパーがけ <p>(3) 組み立てをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組み立て ・ くぎ打ち <p>(4) 塗装をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 色塗り ・ ニス塗り <p>3 まとめと反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出来高調べ ・ 反省 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度製作した作品例を見せ、製作意欲を喚起するとともに、形や用途についても調べさせる。 ・ 絵を中心とした製作工程表や各部分の標本を用意し、製作意欲を高め見通しを持たせる。 ・ 製作に必要な工具だけでなく、使い方や整理整とんの大切さについても理解させる。 ・ かなな盤を使う際は安全に留意させる。 ・ さしがねの使えない生徒には型紙を使ってけがきをさせる。 ・ 部品加工した材料は一組ごとにきちんと整理させることで製作への見通しを明確にする。 ・ 組み立ての際は各自に合った補助具を準備することで、作業への自信を持たせ製作への意欲を高める。 ・ 室内の換気に十分注意させるとともに使用後ははけや容器をよく洗いきちんと後始末させる。 ・ 製作態度や協力にも目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花びんしきの見本 ・ 製作工程表 ・ 工具 ・ さしがね ・ 両刃のこぎり ・ きり ・ ペーパー ・ 補助具 ・ かなづち ・ くぎ ・ 塗料 ・ はけ ・ 製品 	<p>職 4-1, 2, 3 美 4-10</p> <p>職 4-12 道 4-(1), (4)</p> <p>職 4-5, 6, 7, 8, 9, 10 美 4-12 職 4-20</p> <p>数 4-5 職 4-17, 18</p> <p>道 2-(2) 美 4-11 職 4-23, 25, 27</p> <p>数 4-1 社 4-25</p>

題 材	本 立 て の 製 作	月 (時数)	1 ～ 3 月 (36時間)
目 標	○ 本立ての製作を通して、材料どり、部品加工、組み立て、塗装等の基礎的な作業工程を分かるとともに、みんなと協力して安全に根気強く作業する態度を身に付けさせる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 本立ての製作について話し合う。 (1) 本立てについて知る。 ・ 材料、材質 ・ 製作工程 (2) 製作の準備をする。 ・ 製作日程 ・ 作業日程 ・ 必要な機械や工具調べ 2 製作する。 (1) 材料どりする。 ・ けがき ・ のこぎりびき (2) 部品加工をする。 ・ 下穴あけ ・ ペーパーがけ (3) 組み立てをする。 ・ 組み立て ・ くぎ打ち (4) 塗装をする。 ・ 色塗り ・ ニス塗り 3 まとめと反省をする。 ・ 反省 ・ 道具の手入れ	・ いろいろな本立ての見本を見せ、製作意欲を喚起するとともに、形や用途についても調べさせる。 ・ 絵を中心とした製作工程表や各部分の標本を用意し、製作意欲を高め特に見通しを持たせる。 ・ 機械や工具については特に使用上留意すべきことについても理解させる。 ・ 製作に当たってこれまでの製作の経験を基に、能力に応じた作業分担を考える。 ・ 部品加工した材料は一組ごとにきちんと整理させることで製作への見通しを持たせる。 ・ 組み立ての際は二人一組で作業すると効率もよく正確に作業できることを知らせる。 ・ 効率よくきれいに塗装できるように、塗る順序やはけの使い方については十分押さえておく。 ・ 製品の出来栄だけでなく、製作態度や根気強さ、協力にも目を向けさせる。 ・ 手入れ後、所定の場所に格納させる。	・ 本立ての見本 ・ 製作工程表 ・ 工具 ・ さしがね ・ 両刃のこぎり ・ きり ・ ペーパー ・ 補助具 ・ かなづち ・ くぎ ・ 塗料 ・ はけ ・ 製品	職 4-1, 2, 3 美 4-10 職 4-12 道 4-(1),(4) 職 4-5, 6, 7, 8, 9, 10 美 4-12 職 4-20 数 4-5 5-4 職 4-17 美 4-11 職 4-23, 25, 27 数 4-1 社 4-22

中学部 紙工・縫製コース

題 材	きんちゃく袋の製作	月（時数）	4～7月（44時間）
目 標	○ きんちゃく袋の製作を通して、手縫いやミシン縫いに慣れさせるとともに、作る喜びを味わわせ、自分の役割をやり遂げようとする態度を養う。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 きんちゃく袋の製作について話し合う。 (1) 用途を調べる。 (2) 製作の目的を話し合う。 ・ プレゼント、展示 2 製作の準備をする。 (1) 材料や用具、工程を調べる。 (2) きんちゃく袋を製作する。 (個人製作) 3 きんちゃく袋を製作する。 (1) 仕事を分担する。 (2) 材料、用具を準備する。 ・ 布、裁縫道具 (3) 製作する。 ① 裁断をする。 ② 印付けをする。 ③ しつけ縫いをする。 ④ 本縫いをする。 ⑤ ひも通しをする。 ⑥ アププリケ、仕上げをする。 (4) 後始末をする。 ・ 道具の整理整頓 ・ 作業場の清掃 4 学習のまとめと反省をする。 ・ 出来高調べ ・ 作業の取り組みの反省	・ 実際の利用の経験や実物、本などを通してよく使われている身近なものであることに気付かせ製作意欲を喚起する。 ・ 過去の贈呈や販売の様子を写真やVTRを用いて知らせ、目的を持たせる。 ・ 材料や用具の名称や正しい扱い方、収納場所を伝え、安全面への関心を高める。 ・ 工程ごとに実物を提示して内容や手順を分かりやすくする。 ・ 個人製作を通して手順を理解させるとともに、個々の実態を把握する。 ・ 個人製作の様子や希望などを考慮して個々に応じて仕事内容を決める。 ・ 用具は一人分ずつ箱に入れ、安全にかつ整理して扱えるようにする。 ・ 個々の能力に応じて補助具を準備し、作業への抵抗感を和らげる。 ・ 工程内の作業を多く経験できるように適宜仕事を交代させる。 ・ 時間ごとに作業の経過や頑張っている点などを皆で認め合わせて、成就感を持たせ次回の意欲につなぐ。 ・ 収納場所にはそれぞれの名称や絵を書きおき、整然と安全に片付けさせる。 ・ 針が落ちていないかよく調べさせる。 ・ 製作した袋は交流会でプレゼントしたり、附養まつりで展示したりすることを確認させ、製品の生かし方に関心を持たせる。 ・ 皆でやり遂げることの喜びや大切さを味わわせる。	・ 袋 ・ 本 ・ 写真 ・ VTR ・ 裁縫用具 針、糸きりばさみ まち針 など ・ 名称カード ・ 工程表 ・ 用具箱 ・ 補助具 ・ 名前カード ・ 出来高表 ・ シール ・ 糸くず入れ ・ 折れ針入れ ・ ほうき ・ 雑巾 ・ 完成品 ・ 出来高表	職 4-2 職 4-9 道 4-(1) 生・役 2-5 職 4-12, 15 家 4-4, 21 職 4-10, 27 34 算 3-1 社 4-2 生・手 2-4, 8 3-8 職 4-14, 31 道 4-(4)

題 材	手すきはがきの製作	月 (時数)	9～3月 (88時間)
目 標	○ 手すきはがきの製作を通して、その基礎的な知識、技能を身に付けさせるとともに、協力して自分の役割を最後までやり遂げようという態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 手すきはがきの製作について話し合う。</p> <p>(1) 用途を調べる。</p> <p>(2) 材料について知る。</p> <p>2 製作の準備をする。</p> <p>(1) 用具、工程を調べる。</p> <p>(2) はがきを製作する。 (個人製作)</p> <p>3 製作する。</p> <p>(1) 牛乳パックを回収する。 (家庭に呼び掛ける。)</p> <p>(2) 紙の材料を作る。</p> <p>① 牛乳パックを切り開く。</p> <p>ア 四枚の長方形に切る。</p> <p>② 二枚にはぐ。 → 水に浸ける。</p> <p>③ ラミネートをはぐ。</p> <p>④ パルプを細かくする。</p> <p>ア 手でちぎる。</p> <p>イ ミキサーやカッターで粉砕する。(3分間回す)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用したはがきや私製はがきなどを見せてその用途について話し合わせ、自分たちの生活に身近なものであることに気付かせる。 ・ 牛乳パックを見せながら、それからはがきが作れることを知らせ意欲を高める。 ・ 工程ごとに実物を提示して内容や手順を分かりやすくする。 ・ 個人製作を通して手順を理解させるとともに、個々の実態を把握する。 ・ 個人製作の様子や希望などを考慮して個々に応じて仕事内容を分担する。 ・ 工程表を用いて作業の流れや1時間ごとの自分の作業の位置付けが分かるようにする。 ・ 流れに応じて「お願いします」等の言葉掛けをさせ共同作業であることを意識させる。 ・ 実態に応じてはさみやパックカッターを用意する。 ・ 折り目が分かりにくい場合はペン等で印を付ける。 ・ はぎにくい場合は角をもんで少しはぎやすくして渡す。 ・ 水に変色や腐食を防ぐために漂白剤を入れるので、ラミネートをはぐときはよく紙を洗い流すようにする。 ・ 材料は少しずつ渡し意欲を継続しながら活動できるようにする。 ・ 刃に触れたり、濡れた手でプラグを抜わないように気を付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はがき ・ 私製はがき ・ 牛乳パック ・ 工程表 ・ 製作途中の紙等 ・ 分担表 ・ 工程表 ・ はさみ ・ パックカッター ・ ペン ・ バケツ ・ おけ ・ 漂白剤 ・ ミキサー ・ カッター ・ 皿 ・ コップ 	<p>社 4-5</p> <p>職 4-2, 3</p> <p>道 4-(1)</p> <p>生・役 2-5</p> <p>職 4-12, 15</p> <p>家 4-4</p> <p>職 4-10, 27 34</p> <p>社 4-2, 8 3-8</p> <p>職 4-12</p> <p>保健 4-1</p>

主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>(3) 紙をすく。</p> <p>① すき杵を液にくぐらせる。</p> <p>② 水を切る。</p> <p>ア 2本の杵に乗せしばらく待つ。</p> <p>イ 上の杵をはずし厚紙と板に乗せ押さえる。</p> <p>ウ 板をはずし厚紙を下にして置き、スポンジで水を吸い取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網をはさんだすき杵を、パルプ液にくぐらせ持ち上げるまで、しっかりと持っておくように手を添えたり、言葉を掛けたりする。 ・ 4～5回すくと液が薄くなるので、適宜パルプを補充する。 ・ 液に色を付ける、花をすき込むなど工夫し多彩なはがきを作る。 ・ 水が滴り落ちなくなるを確認してから杵をはずすようにさせる。 ・ スポンジで吸い取るときは紙がよれないように丁寧にゆっくりと、また時々絞りながらさせ十分に水を取るようにする。 ・ 薄かったりよれたりしたときは、その都度、良い例と比べながら気付かせ、良い製品を作ろうとする意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ すき杵 ・ 網 ・ おけ ・ 雑巾 ・ 絵の具 ・ 花等 ・ 棒 ・ 厚紙 ・ 板 ・ スポンジ 	<p>職 4-9</p>
<p>(4) プレスし乾燥させる。</p> <p>① アクリル板に張りつける。</p> <p>② 乾燥させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローラーで十分密着させ、厚紙を反らしながらゆっくりとはぐ。 ・ 変色を防ぐため、日陰の風通しの良いところで乾燥させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクリル板 ・ ローラー 	<p>職 4-12, 13 27</p>
<p>(5) スタンプを押す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助台を用いて、正しい位置にしっかりと押すようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンプ補助台 	<p>職 4-26</p>
<p>(6) 包装する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台紙を用いて、製品として丁寧に扱うことに気を付けさせる。 ・ 厚さや形がはがきとして不十分なものは適当な大きさに切り、しおりとして用いて無駄にしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包装用台紙 ・ ビニール袋 ・ ピンキングはさみ 	<p>職 4-34</p> <p>道 4-(4)</p>
<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みの反省 ・ 出来高調べ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに頑張ったことを発表し合い、協力して作業することの大切さや喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来高表 	

中学部 共通作業

題材	穴埋め作業	月(時数)	4～3月(99時間)
目標	○ 穴埋めの作業を通して、材料運び、ボンド入れ、こま打ち等の基本的な技能を身に付けさせるとともに、報告や確認などの基本的な作業態度や根気強く最後まで作業をする態度を養う。		
主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>1 穴埋めの作業について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用途 ・ 製品の流通経路 ・ 作業工程 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品を提示しながら自分たちの家の床材にも用いられているということを、VTR等で説明することで知らせる。 ・ 流通経路について写真や絵などを使って示すことで、作業意欲を高め見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の見本 ・ 写真、絵 ・ 作業工程表 ・ 流通経路図 	<p>職 4-1, 2, 3</p>
<p>2 作業をする。</p> <p>(1) 作業の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服装(エプロン、腕カバー) ・ ボンド、こま、かなづち ぞうきん <p>(2) 作業をする。</p> <p>板を運ぶ→ボンドを入れる→こまを打つ→ボンドをふき取る→板を運ぶ→こん包する</p> <p>(3) 作業の後始末をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボンド、こま、かなづち ぞうきん ・ 出来高表 ・ 納品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業に当たっては、これまでの作業の経験を基に役割分担を行う。 ・ 作業の準備はできるだけ生徒たちで行うように係を決めたり言葉掛けをしたりする。 ・ 作業の前は服装のチェックをさせる。 ・ 作業の始まりや終わりなどの報告はきちんとするように言葉掛けを行う。 ・ こまの打ち損ないやボンドのふき残しが出ないように言葉掛けをする。 ・ 出来高表に10枚終わるごとにチェックさせることで、作業意欲や見通しを持たせる。 ・ 全員で後始末ができるように、役割を決めさせる。 ・ 出来高表を見ながら作業の喜びを味わせるとともに、作業態度や商品の流通についても目を向けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エプロン ・ 腕カバー ・ ボンド入れ ・ かなづち ・ こま ・ 出来高表 	<p>道 4-(4)</p> <p>職 4-5, 6, 9, 10, 11, 22</p> <p>職 4-17, 19</p>
<p>3 まとめと反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出来高調べ ・ 反省 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来高表 	<p>数 4-1</p> <p>5-1</p>

高等部 農 耕 コ ー ス

題 材	春まき野菜の栽培	月（時数）	4～9月（70時間）
目 標	○ 春まき野菜の種類や特性を知り、種まき、育苗管理、鉢上げ、定植、摘果など果菜類を中心とした基礎的な栽培過程を分からせ、道具の使い方を知るとともに協力して働く態度を育てる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 春まき野菜の栽培について話し合う。 (1) 種類や品種を調べる。 ・ トマト ・ ピーマン ・ ナス ・ キュウリなど (2) 栽培計画を立てる。 ・ 育苗方法 ・ 栽培場所 など 2 種まきをする。 (1) 種まきの準備をする。 ・ 種子 ・ 育苗床 (2) 種まきをする。 ・ すじまき ・ ばらまき 3 育苗の管理をする。 (1) 追肥や除草をする。 (2) 鉢上げ（必要に応じて）をする。 (3) かん水をする。 4 農園の準備、定植をする。 (1) 耕起、整地をする。 (2) 施肥をする。 ・ 鶏ふん ・ 石灰 (3) 畝たてをする。 (4) 定植をする。 ・ 苗の選別 ・ 栽植距離 5 定植後の管理をする。 ・ かん水 ・ 除草 ・ 追肥 ・ 土寄せ ・ しきわら ・ 摘芽 ・ 摘芯 ・ 薬剤散布など。 6 収穫をする。 ・ 計量 ・ 袋詰め 7 春まき野菜の栽培について反省をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果菜類の野菜の実物を見せたり、経験を話し合ったりすることで栽培への興味・関心を持たせる。 ・ 今までの経験を基にして作業内容を思い出させ計画表に記入させる。 ・ 発芽しにくい種子は一晩水に浸しておく。 ・ いろいろなまき方を工夫したり、教具を用いたりして均一にまかせる。 ・ 一人一人に育苗箱を分担して責任を持って管理させる。 ・ 一人一人に土作りから植え付けまでの各作業を経験させる。 ・ 適度な深さに植えられるように、教具を工夫しておく。 ・ 当番を決め、毎日かん水させる。 ・ 畝づくりは白線やロープなどで印をつけておく。 ・ 耕うん機の操作や、くわの使用等全員に経験させる。 ・ 鉢の運搬、定植の際には苗を傷つけないように丁寧に扱わせる。 ・ 使用した農具は、清掃し決まった場所に片付けさせる。 ・ 除草は適宜させる。 ・ 薬剤散布は教師が行う。 ・ 追肥は根もとに施肥しないようにさせる。 ・ 収穫した野菜を宿泊学習などで使用し栽培意欲を高める。 ・ 良かったこと、悪かったこと、気付いたことなど発表させ、次の栽培への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トマト ・ ピーマン ・ キュウリ ・ ナス ・ 栽培計画表 ・ 用土 ・ 種子 ・ 育苗箱 ・ じょうろ ・ 農具 ・ 移植ごて ・ 割ばし ・ ビニールポット ・ くわ ・ スコップ ・ 肥料 ・ 鶏ふん ・ 石灰 ・ 化学肥料 ・ ロープ ・ 苗 ・ 農具 ・ 支柱 ・ 農薬 ・ 苗 ・ 袋 ・ はかり ・ 記録帳 	生・自 1-4 理 4-20 職 4-7, 11 12 理 4-12 理 4-5 職 4-13, 14 15, 16 職 4-24, 25 職 4-13, 14 理 4-4 職 4-27 数 4-2, 5 家 4-17, 18 道 4-(4) 職 4-29

題 材	春まき草花の栽培	月 (時数)	4～10月 (55時間)
目 標	○ 春まき草花の栽培を通して、種まきから開花までの基礎的な栽培過程を分からせ、道具の使い方を知るとともに、進んで働く態度や協力して仕事を果たしていく習慣を養う。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 草花の栽培について話し合う。 (1) 草花の種類と品種を調べる。 ・ 春まき マリーゴールド、サルビアなど (2) 栽培計画を立てる。 ・ 育苗方法 ・ 作業内容 2 草花の種まきをする。 (1) 種まきの準備をする。 ・ 種子 ・ 育苗床 (2) 種まきをする。 ・ すじまき ・ ばらまき ・ 点まき 3 育苗の管理をする。 (1) 追肥や除草をする。 (2) 土作りをする。 (3) 鉢上げ (ビニールポット) をする。 (4) かん水をする。 4 定植をする。 (1) 定植の準備をする。 ・ 整地 ・ 肥料 ・ 苗の選別 (2) 定植をする。 ・ 花壇 ・ 鉢植え 5 定植後の管理をする。 ・ かん水 ・ 除草 ・ 追肥 ・ 薬剤散布など 6 開花後の後始末をする。 ・ 除去 ・ 整地 7 草花の栽培の反省をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草花には春まき、秋まきなどの種類があることを、今までの経験や花暦などを見せることによって気付かせる。 ・ 季節に合った春まきの花を選ばせる。 ・ 経験を基にして作業内容を思い出させ計画表に記入させる。 ・ 発芽しにくい種子は、一晩水に浸しておく。 ・ 床面に十分かん水して土を落ち着かせてから種まきをする。 ・ 小さな種は砂に混ぜてまきやすいようにする。 ・ 各作業を全員に経験させる。 ・ 適度な深さに植えられるように教具を工夫しておく。 ・ 当番を決めて、毎日かん水させる。 ・ ロープやひもに印をし一定間隔に植える。 ・ 苗を傷つけないように丁寧に扱わせる。 ・ 農具は所定の場所に整理させる。 ・ かん水をさせる。 ・ 一本ずつ除虫をさせる。 ・ 薬剤散布は教師が行う。 ・ 開花した花を見たり飾ったりして栽培の喜びを味わわせる。 ・ 良かったこと、悪かったこと、気付いたことなど発表させ、次の栽培への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花暦 ・ 図鑑 ・ 種子 ・ 栽培計画表 ・ 用土 ・ 育苗箱 ・ ふるい ・ じょうろ ・ 砂 ・ 移植ごて ・ 育苗箱 ・ ビニールポット ・ 割ばし ・ ロープ ・ 肥料 ・ くわ ・ 一輪車 ・ 農具 ・ 肥料 ・ 農薬 ・ 栽培計画表 ・ 記録帳 	生・自 1-4 理 4-8 職 4-1, 2 3 職 4-7, 9 12, 13 理 4-20 職 4-23, 24 25 職 4-34 道 4-(4)

題 材	秋まき野菜の栽培	月 (時数)	9～3月 (80時間)
目 標	○ 秋まき野菜の種類や特性を知り、種まき、育苗管理、鉢上げ、定植、収穫など葉菜類、根菜類を中心とした基礎的な栽培過程を理解させ、安全に道具を使用させるとともに収穫の喜びや協力して最後まで働く態度を身に付けさせる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 秋まき野菜の栽培について話し合う。</p> <p>(1) 種類や品種を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハクサイ ・ レタス ・ タマネギ ・ キャベツ ・ ダイコンなど <p>(2) 栽培計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育苗方法 ・ 栽培場所など <p>2 種まきをする。</p> <p>(1) 種まきの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種子 ・ 育苗床 <p>(2) 種まきをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すじまき ・ ばらまき ・ 直まき <p>3 育苗の管理をする。</p> <p>(1) 追肥や除草をする。</p> <p>(2) 鉢上げ (必要に応じて) をする。</p> <p>(3) かん水をする。</p> <p>(4) 間引きをする。</p> <p>4 農園の準備, 定植をする。</p> <p>(1) 耕起, 整地をする。</p> <p>(2) 施肥をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鶏ふん ・ 石灰 <p>(3) 畝立てをする。</p> <p>(4) 定植をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗の選別 ・ 栽植距離 <p>5 定植後の管理をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かん水 ・ 除草 ・ 追肥 ・ 土寄せ ・ しきわら ・ 間引き ・ 摘芽 ・ 摘芯 ・ 薬剤散布 ・ 除虫など <p>6 収穫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計量 ・ 袋詰め <p>7 秋まき野菜の栽培について反省をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物の野菜を見せたり, 経験を話し合ったりすることで栽培への興味・関心を持たせる。 ・ 今までの経験を基にして作業内容を思い出させ計画表に記入させる。 ・ 発芽しにくい種子は一晩水に浸しておく。 ・ いろいろなまき方を工夫したり, 教具を用いたりして均一にまかせる。 ・ 一人一人に育苗箱を分担して責任を持って管理させる。 ・ 各作業を分担して行い一人一人に責任を持って行わせる。 ・ 適度な深さに植えられるように教具を工夫しておく。 ・ 当番を決め毎日かん水させる。 ・ 耕うん機の操作やくわの使用等全員に経験させる。 ・ 農具は, 使用するごとに清掃し片付けさせる。 ・ 鉢の運搬, 定植の際には苗を傷つけないように丁寧に扱わせる。 ・ 除草は適宜させ, 作業区域を示し責任を持たせる。 ・ 当番を決め責任を持って, かん水を絶やさないようにする。 ・ 薬剤散布は教師が行う。 ・ 追肥は根もとに施肥しないようにさせる。 ・ 収穫した野菜を宿泊学習などで使用し栽培意欲を高める。 ・ 良かったこと, 悪かったこと, 気付いたことなど発表させ, 次の栽培への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハクサイ ・ キャベツ ・ ダイコン ・ タマネギ ・ レタス ・ 栽培計画表 ・ 用土 ・ 種子 ・ 育苗箱 ・ じょうろ ・ 農具 ・ 割ばし ・ ビニールポット ・ くわ ・ スコップ ・ 肥料 ・ 鶏ふん ・ 石灰 ・ 化成肥料 ・ ロープ ・ 苗 ・ 農具 ・ 支柱 ・ 農薬 ・ 袋 ・ はかり ・ 記録帳 	<p>生・自 3-2</p> <p>理 5-20</p> <p>道 1-(3)</p> <p>職 5-7, 12 13</p> <p>職 5-31</p> <p>理 5-12</p> <p>理 5-5</p> <p>職 5-14, 15 16</p> <p>職 4-24, 25</p> <p>職 5-31</p> <p>職 5-13, 14 15</p> <p>理 5-4</p> <p>職 4-27</p> <p>数 5-2, 3, 4</p> <p>家 5-17, 18</p> <p>道 4-(4)</p> <p>職 4-29</p>

題 材	秋まき草花の栽培	月（時数）	9～3月（65時間）
目 標	○ 秋まき草花の栽培を通して、種まきから育苗、開花、定植、採種までの基礎的な知識・技能を身に付けさせるとともに、見通しを持って進んで働く態度や自分の役割を責任を持って最後までやり遂げる態度を養う。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 草花の栽培について話し合う。 (1) 草花の種類と品種を調べる。 ・ 秋まき チューリップ パンジー、キンギョソウなど (2) 栽培計画を立てる。 ・ 育苗方法 ・ 作業内容	・ 草花には春まき、秋まきなどの種類があることを、今までの経験や花暦などを見せることによって思い出させる。 ・ 季節に合った花の種類を選ばせる。 ・ 経験を基にして作業内容を思い出させ計画表に記入させる。 ・ 発芽しにくい種子は、一晩水に浸しておく。	・ 花暦 ・ 図鑑 ・ 種子 ・ 球根 ・ 栽培計画表	生・自 9-2 理 5-8
2 草花の種まきをする。 (1) 種まきの準備をする。 ・ 種子 ・ 育苗床 (2) 種まきをする。 ・ すじまき ・ ばらまき ・ 点まき ・ 球根の植え付け	・ 床面に十分かん水して土を落ち着かせてから種まきをする。 ・ 小さな種は砂に混ぜてまきやすいようにする。 ・ 農具は所定の場所に整理させる。 ・ 一人一人に作業を分担して責任を持たせる。	・ 用土 ・ 育苗箱 ・ ふるい ・ じょうろ ・ 砂	職 5-1, 2, 3
3 育苗の管理をする。 (1) 追肥や除草をする。 (2) 土作りをする。 (3) 鉢上げ（ビニールポット）をする。 (4) かん水をする。	・ 適度な深さに植えられるように教具を工夫しておく。 ・ 当番を決め、毎日かん水させる。	・ 移植ごて ・ 育苗箱 ・ ビニールポット ・ 割ばし	道 1-(3) 職 5-4, 5, 6 7, 12, 13, 15
4 定植をする。 (1) 定植の準備をする。 ・ 整地 ・ 肥料 ・ 苗の選別 (2) 定植をする。 ・ 花園 ・ 鉢植え	・ ロープに印を付け一定間隔に植える。 ・ それぞれの作業を分担し、責任を持って最後まで行わせる。 ・ 除草は区域ごとに分担させる。 ・ 薬剤散布は教師が行う。 ・ 霜害予防も考慮する。	・ ロープ ・ 肥料 ・ くわ ・ 一輪車	理 5-20 職 5-21, 26 31, 36 39
5 定植後の管理をする。 ・ かん水・ 除草・ 追肥・ 土寄せ ・ 間引き ・ 薬剤散布など	・ 開花した花を見たり飾ったりして栽培の喜びを味わわせる。	・ 肥料 ・ 農薬	
6 開花後の後始末をする。 ・ 除去 ・ 採種 ・ 整地	・ 良かったこと、悪かったこと、気付いたことなど発表させ、次の栽培への意欲を高める。	・ 栽培計画表 ・ 記録帳	道 4-4
7 草花栽培の反省をする。			

高等部 窯 業 コ ー ス

題 材	型作りによる製作	月 (時数)	4～5月 (40時間)
目 標	○ 型作りによる製作を通して、粘土に慣れ親しませ、丸める、切る、のばす、接合するなどの成形に必要な基礎的技能を身に付けさせるとともに、最後までやり通そうとする態度を養い、作る楽しさを味わわせる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 型による製作について話し合う。</p> <p>(1) 身の周りの製品について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色や形 ・ 使い方 <p>(2) 製作の目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会 ・ 附養まつり 記念品 <p>(3) 製作の手順や方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小皿 ・ 箸置きなど <p>2 型による製作をする。</p> <p>(1) 目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業態度 出来高 <p>(2) 必要な用具を準備する。</p> <p>(3) 製作をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">土作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">成形</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">乾燥</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">素焼き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">釉がけ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">本焼き</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 150px; margin-top: 10px;">仕上げ</div> <p>(4) 用具の後始末をする。</p> <p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <p>(1) 製品の包装をする。</p> <p>(2) 製品の出来高を調べる。</p> <p>(3) 作業態度などの反省をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で使っている製品や生徒の作品を調べることで、焼き物に対する関心を高め、製作作業への意欲を高める。 自分たちの製品が運動会などの記念品になることや自分たちで使うことなどについて話し合うことで、目的意識や作業への意欲を高める。 作業の工程表などで繰り返し確認させ、見通しを持たせる。 目標は題材を通したものを決めさせるが、毎時間の中でも態度や出来高について決めさせる。 道具の設置場所等を設定し、繰り返しの中で理解させ、進んで準備や後始末ができるようにする。 用具の取り扱いには安全に配慮して扱わせる。 素材の感触を十分に味わわせ、確かめさせることを重視する。 工程の一通りをすべての生徒に経験させ、製作の楽しさを味わわせるとともに基礎的な技能を身に付けさせる。 出来た製品を鑑賞したり、出来高を調べたり、作業態度を他の生徒と評価し合ったりして、自信や次の作業への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品 絵カード 写真 作業工程表 目標カード 出来高表 粘土 粘土板 石こう型 たたら板 粘土べら ハケ 釉薬 バケツ サンドペーパー 包装紙 目標カード 出来高表 	<p>美 4-13</p> <p>職 5-39</p> <p>職 5-29, 11</p> <p>職 5-1, 2 3, 12 13, 15</p>

題 材	機械ろくろによる製作	月（時数）	6～10月， 1～3月（190時間）
目 標	○ 機械ろくろによる湯飲みや皿などの製作を通して，計量，機械ろくろの使い方，修正などの基礎的技術を身に付けさせるとともに，役割分担をして作業することで，協力して最後まで役割を果たそうとする態度を養う。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 機械ろくろによる製作について話し合う。</p> <p>(1) 身の周りの製品について話し合う。</p> <p>(2) 製作の目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 附養まつり ・ 記念品 <p>(3) 作業内容や方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の手順 ・ 機械ろくろの使い方 <p>2 機械ろくろによる製作をする。</p> <p>(1) 目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業態度 ・ 出来高 <p>(2) 役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上作り ・ 計算 ・ 打ち込み ・ 機械ろくろによる成形 <p>(3) 製作をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">上作り</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">計量</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">打込</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">成形</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">乾 燥</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">修 正</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">釉かけ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">本焼き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin: 0 5px;">仕上げ</div> </div> <p>(4) 用具の後始末をする。</p> <p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <p>(1) 製品の出来高を調べる。</p> <p>(2) 作業態度などの反省をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の周りの湯飲みや皿などの製品を調べ，これから製作する製品への関心を高める。 ・ 自分たちの製作した製品を附養まつりで販売することや，施設訪問での贈り物などにし，いろいろな人に利用してもらうことを話し合うことで製作の目的意識や意欲を高める。 ・ 機械ろくろを使用することや，作業を分担し流れ作業で行うことなどとともに，それぞれの作業の大切さを理解させる。 ・ 生徒一人一人に作業工程を一通り経験させ，作業への見通しを持たせる。 ・ 目標は生徒の実態を考慮し，達成可能なものを設定し，学習意欲を高める。 ・ 役割分担については，生徒の意欲や実態を十分に考慮する。 ・ 分担された作業に継続して取り組ませることで，技能的な向上や持続力の育成を図る。 ・ 生徒同士のかかわりを基にペアや小集団での作業場面を設定し，お互いを意識し合いながら協力して作業に取り組めるようにする。 ・ 生徒の実態に応じて，十分に作業が行えるように補助具等を準備する。 ・ 出来上がった製品を点検したり，出来高を調べたりして，作業の反省をするとともに，次の製作への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品 ・ 湯飲み ・ 皿 ・ 作業工程表 ・ 機械ろくろ ・ 出来高表 ・ 目標カード ・ 分担表 ・ 粘土 ・ 石こう型 ・ はかり ・ ぞうきん ・ トレー ・ 補助具 ・ 機械ろくろ ・ 釉薬 ・ サンドペーパー ・ 包装紙 ・ 目標カード ・ 出来高表 	<p>美 4-13</p> <p>職 5-39</p> <p>職 5-11</p> <p>職 5-3</p> <p>職 5-12, 5</p> <p>職 5-6, 13, 20, 40</p> <p>9</p> <p>職 5-15</p>

題 材	鑄 込 み に よ る 製 作	月 (時数)	11～12月 (40時間)
目 標	○ 鑄込みによる製作を通して、型の手入れや組み立て、流し込み、型出しなどの基礎的技能を身に付けさせるとともに、協力して丁寧に作業に取り組もうとする態度を身に付けさせる。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 鑄込みによる製作について話し合う。</p> <p>(1) 来年の干支やいろいろな花器について調べたり話し合ったりする。</p> <p>(2) 製作の目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 附養まつり ・ 記念品 <p>(3) 作業内容や方法を知る。</p> <p>2 鑄込みによる製作をする。</p> <p>(1) 目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業態度 ・ 出来高 <p>(2) 役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 型の手入れ ・ 組み立て ・ 泥漿^{しよう}づくり ・ 流し込み <p>(3) 製作をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">泥漿^{しよう}づくり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">流し込み</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">乾 燥</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">型出し</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">素焼き</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">釉がけ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">本焼き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 10px;">仕上げ</div> </div> <p>(4) 用具の後始末をする。</p> <p>4 学習のまとめと反省をする。</p> <p>(1) 製品を点検し、出来高を調べる。</p> <p>(2) 作業態度などの反省をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度製作した製品に触れさせたり、附養まつりや施設訪問などでの活動を思い出させたりして作業への意欲を高める。 ・ 作業の手順は初めての経験であることから具体的に示範したり、生徒一人一人に経験させたりして理解させる。 ・ 出来高の数よりも、一つ一つの製品をじっくりと丁寧に仕上げることを意識させる。 ・ 役割分担は、生徒の実態に応じて行うが、できるだけそれぞれの生徒が一通りの工程を経験できるようにする。 ・ 用具や型の取り扱いは丁寧に傷つけないように常に言葉掛けをして意識付ける。 ・ 乾燥に時間を要するので、修正作業と組み合わせたりして効率よく作業を進めることを意識させる。 ・ 製品に不良品がないかを中心に反省させ、協力し最後まで丁寧に組み合わせたかなどを相互に評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参考写真 ・ 写真 ・ 製品 ・ 石こう型 ・ 作業工程表 ・ 目標カード ・ 分担表 ・ 絵カード ・ 石こう型 ・ 粘土 ・ バケツ ・ じょうろ ・ ひしゃく ・ ハケ ・ サンドペーパー ・ 釉薬 ・ 包装紙 ・ 目標カード ・ 出来高表 	<p>美 4-13</p> <p>職 5-39</p> <p>職 5-11, 40 9</p> <p>職 5-5, 2</p> <p>職 5-7</p> <p>職 5-15</p>

高等部 木工コース

題材	うに箱の製作	月(時数)	4～7月(70時間)
目標	○ うに箱の製作に関する作業工程を分かせるとともに、安全な機械操作を身に付けさせながら自分の作業分担に責任を持ち、最後まで仕事をやり遂げようとする態度を育てる。		
主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>1 うに箱の製作について話し合う。</p> <p>(1) 身の回りのうに箱について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料、製品の形状 ・ 流通経路、使用目的 <p>(2) うに箱の製作の内容、方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業工程 ・ 機械類 <p>2 うに箱の製作をする。</p> <p>(1) 役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ L打ち ・ 組み打ち ・ 底打ち <p>(2) 作業の準備をする。</p> <p>(3) 製作をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">材料の準備</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">L打ち</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-top: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">組み打ち</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">底打ち</div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-top: 5px; text-align: center;">製品検査とこん包</div> </div> <p>(4) 後始末をする。</p> <p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <p>(1) 製品の出来高を調べる。</p> <p>(2) 作業態度などの反省をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ うに箱の流通経路図や、うに箱が実際に使用されている場面の写真などを掲示して、うに箱への興味・関心を持たせる。 ・ うに箱を製作している場面を写真やVTRで見せながら、うに箱の製作の内容方法を知らせる。 ・ 分担された仕事を、それぞれが確実に済ませることで、うに箱が出来上がることになり気付けさせる。 ・ これまでの経験や能力等を考慮しながら役割を分担する。 ・ 道具等は設置場所を決めておき、生徒たちが準備しやすいようにしておく。 ・ 次の人に渡すときには、言葉掛けや報告をさせる。 ・ 出来高板を用意して、出来高目標を立てやすくする。 ・ 不良品や不良部品を見分ける選別板を設置し、弁別しやすくなる。 ・ 適宜作業を交替させることによって友達の仕事を理解させる。 ・ 適宜賞賛を与えながら仕事への自信を持たせ、製作への意欲を高める。 ・ 係を決めて毎日の出来高や月別の生産高を記録させ、製作への意欲を高める。 ・ 作業場をきれいに掃除して次の作業に支障のないようにする。 ・ 一人一人の良かった点を賞賛し、仕事をやり遂げた喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流通経路図 ・ 写真 ・ VTR ・ 作業工程表 ・ 分担表 ・ タッカー ・ ステープル ・ 万力 ・ 材料入れ箱 ・ 数え台 ・ 不良品 ・ 見本 ・ 製品入れ箱 ・ 出来高板 ・ ひも ・ 清掃用具 	<p>社 4-24 5-24</p> <p>職 5-1, 13, 16 道 2-(3)</p> <p>生・役 3-4</p> <p>職 4-1, 9, 14 27</p> <p>国 4-3</p> <p>職 4-3, 11, 22, 25 34</p> <p>生・手 3-7, 8, 10 職 5-20, 40</p> <p>国 5-4 数 4-12</p> <p>職 4-31 職 5-15</p>

題 材	コースターの製作	月 (時数)	9～3月 (200 時間)
目 標	○ コースターの製作を通して、道具や機械類などの安全な使い方を身に付けさせながら自分の役割を果たすとともに、協力しながら最後まで仕事をやり遂げる態度を育てる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 コースターの製作について話し合う。</p> <p>(1) コースターについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 形と大きさ 材料と部品 <p>(2) 目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 附養まつり ・ 記念品 <p>(3) 作業工程を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を提示して、大きさ、形、材料などを考えさせる。 製作した製品を附養まつりで売ったり施設訪問での記念品にしたりすることを知らせ、製作への目的意識や意欲を高める。 工程表をもとに、作業工程や必要な工具類を分からせる。 これまでの経験や能力等を考慮しながら役割を分担する。 道具等は設置場所を決めておき、生徒たちが準備しやすいようにしておく。 それぞれの作業工程で一人一人に応じた補助具を準備したり、生徒自身に良否の判断をさせたりしながら作業に取り組む態度や技能を高めていく。 一つの作業工程を二人で取り組ませたり、お互いに言葉掛けをし合いながら他の生徒がしている作業への意識を持たせる。 教師は、生徒の言葉、動き等をよく見ながら適切な言葉掛けや援助をしていくようにする。 作業を進めていく際においては、安全面や換気等には十分に注意する。 みんなで協力し合いながら後始末をさせる。 出来高を調べさせたり、作業態度の良かった点、悪かった点等を反省させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> コースター VTR 作業工程表 機械類 材料入れ箱 切断用補助具 中ぐり用補助具 面取り用補助具 ガソリントーチランプ ワイヤブラシ マスク 腕カバー ビニール袋 シール 出来高板 	<p>職 5-31</p> <p>職 4-21</p> <p>職 4-24</p> <p>生・役 3-4</p> <p>生・手 3-7</p> <p>職 5-28</p> <p>生・役 3-7</p> <p>職 4-24</p> <p>職 5-40</p> <p>職 4-14, 15</p> <p>国 3-3</p>
<p>2 コースターを製作する。</p> <p>(1) 役割分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 切断 ・ 中ぐり 面取りなど <p>(2) 作業の準備をする。</p> <p>(3) 製作をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">切断 (糸のこ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">中ぐり (ボール盤)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">面取り (ベルトグラインダー)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">焼き付け (ガソリントーチランプ)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">研磨 (ワイヤブラシ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">検査・包装 (焼印)</div> </div> <p>(4) 後始末をする。</p>			
<p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <p>(1) 出来高を調べる。</p> <p>(2) 作業態度の反省をする。</p>			

高等部 手 芸 コ ー ス

題 材	ぞうきんの製作	月 (時数)	4～7月 (70時間)
目 標	○ ぞうきんの製作を通して、手縫いやミシン縫い、アイロンかけなど、縫工作業に必要な基礎的な技能を身に付けさせるとともに、協力して作業を進めたり、自分の役割を責任を持ってやり遂げたりする態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 ぞうきんの製作について話し合う。</p> <p>(1) ぞうきんの用途を調べる。</p> <p>(2) 製作の目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級への配布 清掃活動での利用 <p>(3) 材料や用具、工程を調べる。</p> <p>2 製作する。</p> <p>(1) ぞうきんの試作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手縫い ・ ミシン縫い <p>(2) 目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業態度 出来高 <p>(3) 材料や用具の準備をする。</p> <p>(4) 分担作業で製作する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">糸ほどこ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アイロンかけ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">折り込み</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">印つけ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">しつけ縫い</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本縫い</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仕上げ</div> </div> </div> <p>(5) 後始末をする。</p> <p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業態度 出来高 	<ul style="list-style-type: none"> ぞうきんが、家庭や学校での清掃活動でよく使われていることに気付かせ、製作への意欲を高める。 作ったぞうきんを各学校へ配布することを知らせ、丁寧に作るように意識付ける。 工程表を基に、作業の手順や内容、必要な材料・用具について調べさせる。 個人製作を通して製作の手順を理解させるとともに個々の能力や実態を把握する。 個人製作の結果を参考にして目標枚数や製作の大まかな計画を話し合わせ、製作活動への見通しを持たせる。 個人製作の様子を参考にして役割を分担させる。 それぞれの作業に責任を持って取り組むように、また、協力して仕事をしている意識を高めるようにお互い声を掛け合わせる。 アイロンやミシンの安全な使い方を繰り返し確認させる。 分担での作業が十分できるようになったら適宜役割を交替させ、いろいろな仕事を体験させる。 用具は、決められた場所に整理して、保管させる。 出来高を調べさせたり、自己評価をさせたりして、達成感を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ぞうきん 工程表 古タオル 裁縫用具 ミシン 製作計画表 目標カード 出来高表 作業分担表 工程表 リッパー アイロン アイロン台 ものさし チャコ 裁縫用具 ミシン ミシン油 清掃用具 目標カード 出来高表 	<p>社 5-5</p> <p>国 5-7</p> <p>職 5-39</p> <p>社 5-24</p> <p>道 4-(4)</p> <p>職 5-45</p> <p>職 5-11, 12</p> <p>13</p> <p>家 5-6</p> <p>家 5-8, 9</p> <p>職 5-1</p> <p>職 5-31</p> <p>道 1-(3)</p> <p>職 5-2～10</p> <p>職 5-17, 18</p> <p>19</p> <p>生・基 3-31</p> <p>生・手 3-7</p> <p>～10</p> <p>生・役 5-4</p> <p>職 5-14, 15</p> <p>生・手 3-5</p> <p>職 5-13</p> <p>国 5-18</p>

題 材	染色による小物の製作	月（時数）	9～12月（110時間）
目 標	○ 染色による小物の製作を通して、染色や縫い方の基礎的な技能を身に付けさせるとともに協力して作業を進めたり、自分の役割を最後まで責任を持って、やり遂げたりする態度を育てる。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 染色による小物について話合う。</p> <p>(1) 絞り染めについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特徴 ・ 材料と用具 製作の手順 <p>(2) 製品を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 袋物 ・ コースター等 <p>(3) 製作の目的を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 附養まつりでの販売など <p>2 製作をする。</p> <p>(1) 目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業態度 ・ 出来高 <p>(2) 材料や用具の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 布 ・ 染色用具 <p>(3) 染色をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 絞り 浸染液作り </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> 浸染 水洗い 定着 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> 発色 絞り解き アイロン </div> </div> <p>(4) 仕立てる。(例－袋物)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 裁断 印付け しつけ </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ミシン しつけ外し ひも通し </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> アイロン 仕上げ </div> </div> <p>(5) 後始末をする。</p> <p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業態度 出来高 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな染色作品を提示し、染色の美しさに気付かせ、染色への興味・関心を高める。 材料や用具、手順などを工程表に示し実際に布を染めてみるなどして、製作への見通しを持たせる。 製品見本を提示して製作品を決定させ製作意欲を引き出す。 附養まつりで販売することから、丁寧に作らなければならないことを意識付ける。 題材を通した目標、毎時間の目標などを決め、意欲を高めるようにする。 用具や材料の設置場所を分かりやすいように表示しておく。 布は、洗濯して糊抜きをしておく。 簡単な輪ゴム絞りから縫い絞りまで、生徒の実態に応じた絞りをさせる。 火気や安全には十分気を付けさせる。 仕立てでも、生徒に一通り作業をさせながら見通しを持たせていく。 作業に慣れ、工程が分かってきたら分担作業を取り入れていく。 生徒同士のかかわりを基にペアや小集団での作業場面を設定して、お互いを意識し、協力して取り組めるようにする。 用具に付着した染料などを十分にふき取って始末する。 目標を基に、各自反省を発表させ、次の取り組みへの意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 染色製品 工程表 布 染色用具 製品見本 目標カード 出来高表 布 染色用具 針・糸 ゴム手袋 新聞紙 たらい 干し台 洗剤 アイロン ミシン ものさし チャコ 裁縫用具 清掃用具 目標カード 出来高表 	<ul style="list-style-type: none"> 社 5-5 国 5-7 職 5-39 美 5-13 職 5-11, 12 13 家 5-11 職 5-2, 45 社 5-34 道 4-(4) 職 5-1 理 5-18 生・役 5-4 職 5-31 道 1-(3) 生・基 3-31 生・手 3-6, 7 8 職 5-3, 10 職 5-17, 19 美 5-4, 5 家 5-6 家 5-8, 9 職 5-14, 15 生・手 3-5 数 5-13 国 5-18

題材	織り物の製作	月(時数)	1～3月(90時間)
目標	○ 織り物の製作を通して、織り方の手順など製作に必要な基礎的技能を身に付けさせるとともに、協力して作業を進めたり、自分の役割を最後まで責任を持って、根気強くやり遂げたりする態度を育てる。		
主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>1 織り物について話し合う。</p> <p>(1) いろいろな織り物を調べる。</p> <p>(2) 製作の方法や手順を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用具の使い方 ・ 材料 ・ 織り方 <p>(3) 製作する物を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 壁飾りなど <p>(4) 製作の目的について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念品など <p>2 織り物の製作する。</p> <p>(1) 目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業態度 ・ 出来高 <p>(2) 材料や用具の準備をする。</p> <p>(3) 製作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 織り作業 ・ 縦糸張り作業 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 糸巻き 縦糸張り </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> あぜ棒通し 詰め </div> </div> <p>足踏み) (織り) の繰り返し</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 布織り上がり 製品制作 </div> </div> <p>(4) 後始末をする。</p> <p>3 学習のまとめと反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業態度 ・ 出来高 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の製品や布を見せたりして模様 の美しさや縦糸と横糸の組み合わせで できているなど織り物の特徴について、気 付かせる。 ・ 一人一人に実際に体験させて、作業の 手順を理解させる。 ・ 自分たちの織った物が、施設訪問での 記念品になることや、自分たちが使う物 になることについて話し合わせ、製作へ の意欲を高める。 ・ 材料は、家庭で不要になった毛糸など も集めさせる。 ・ 目標は、生徒自身で考えさせ、意識し て取り組めるようにする。 ・ 最初は、織り作業を中心にさせ、慣れ てきたら縦糸張り作業もさせていく。 ・ 縦糸張りは、少しずつ練習させていく。 ・ 単純な作業になるので、よそ見をした り、手を休めたりしないように言葉掛け をしていく。 ・ 基本的には、織る縦糸の色は生徒自身 で選ばせるが、能力に応じてデザインな ども工夫させていく。 ・ 糸端や結び目の始末もできる生徒には させていく。 ・ 簡単な製品の製作をする。 ・ お互いの作業態度を評価し合ったり、 出来上がった製品がみんなに喜ばれたこ となどを話し合ったりして、満足感を得 られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の 製品 ・ 布 ・ 工程表 ・ 織り機 ・ 毛糸 ・ 作品見本 ・ 織り機 ・ 毛糸、糸 ・ 余り布 ・ ボビン ・ シャトル ・ 缶 ・ 目標カー ド ・ 出来高表 ・ 工程表 ・ はさみ ・ 編み棒 ・ ミシン ・ 清掃用具 ・ 目標カー ド ・ 出来高表 	<p>家 5-4</p> <p>保健 4-2</p> <p>社 5-5</p> <p>国 5-7</p> <p>職 5-39</p> <p>美 5-13</p> <p>道 4-(4)</p> <p>職 5-2</p> <p>職 5-11, 12</p> <p>13</p> <p>職 5-1</p> <p>道 1-(3)</p> <p>生・役 5-4</p> <p>生・基 3-31</p> <p>生・手 3-7, 10</p> <p>職 5-31</p> <p>職 5-3～10</p> <p>職 5-17～19</p> <p>美 5-4, 5</p> <p>職 5-14, 15</p> <p>生・手 3-5</p> <p>職 5-1, 3</p> <p>国 5-18</p>

高等部 印刷 コース

題 材	用 箋 の 製 作	月 (時数)	4～3月 (120時間)
目 標	○ 手引フート印刷による用箋の製作を通して、活版印刷の基本的技能を身に付けるとともに最後まで根気強く取り組もうとする態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
<p>1 印刷作業について話し合う。</p> <p>(1) 印刷の用具や機械について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活字, インテル, チース等 用具や機械の取り扱い <p>(2) 基本的工程を話し合う。</p> <p>文選→植字→校正→印刷→解版→返版など</p> <p>2 用箋の印刷について話し合う。</p> <p>(1) 日常使われる用箋を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> メモ帳, 便箋など 大きさ, 形式など イラスト入り, 二色刷り <p>(2) 作業計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や自家用用箋 <p>3 印刷をする。</p> <p>(1) 作業の準備をする。</p> <p>(2) 作業分担をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 差し込みと印刷 二色刷り等の流れ作業 <p>(3) 印刷をする。</p> <p>(4) 製本をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 用紙数え ・ テープ張り 裁断 <p>4 後始末をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械の手入れ <p>5 反省とまとめをする。</p> <p>(1) 出来高を調べる。</p> <p>(2) 作業態度など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 機械や器具類があることを知らせ, 安全に気を付けて取り組むように促す。 実物や絵カード等を準備し, 随時説明したり常設したりして機械や器具類の名前など理解しやすいようにしていく。 工程表や写真などを利用して視覚的に理解させるとともに実際の活動を通して深めさせる。 身近にある電話用のメモ帳や買い物などに利用するメモ帳などを利用してその用途や特徴を知らせるとともに, 製作への意欲を持たせる。 用箋は, 附養まつりでの展示や販売用に刷ることを知らせ製作への意欲を高めさせる。 作業の分担は, 生徒間の関係を考慮してペアを組ませたり, 小集団での活動にしたりするなど工夫していく。 用紙の差し込みの位置や用紙の扱いに機を付けさせながら取り組ませる。 用箋に応じて50枚, 100枚ずつの束にさせ, 製本させる。その際, 用紙が数えにくい生徒には補助具などを使わせる。 それぞれの生徒に取り組ませながら作業上注意することなどにも随時触れ指導する。 後始末は, 全員で取り組ませ, お互いに教え合うように言葉掛けを随時行う。 製品の一部は持ち帰らせ, 作業の喜びを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カード 名前カード 機械や器具 工具 機械用オイル 活字 込 インテル チース インク など 作業工程表 用箋見本 計画表 分担表 補助具 出来高表 製本テープ等 出来高表 	<p>生・手 2-7, 8 3-7～10</p> <p>数 2-2 美 5-9</p> <p>職 5-12, 13</p> <p>職 5-7</p> <p>道 4-(1)</p> <p>美 4-13</p> <p>職 4-1～5, 9</p> <p>職 5-2～4, 7, 9, 12</p> <p>道 2-(3)</p> <p>職 5-15</p> <p>算 3-3</p> <p>道 1-(5)</p>

題 材	名 刺 の 製 作	月 (時数)	5～7月 (40時間)
目 標	○ 受注による名刺の製作を通して、納期までの見通しを持ち、受注生産の喜びを味わわせるとともに、集中して丁寧に作業に取り組む態度を育てる。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 名刺の印刷について話し合う。 (1) 昨年の印刷見本を調べる。 ・ 印刷のスタイル ・ 活字や用紙の大きさ (2) 注意することを話し合う。 2 作業計画を立てる。 (1) 納期までの計画を調べる。 印刷→乾燥→点検→納品 (2) 個人目標を決める。 (3) 作業分担をする。 3 名刺のゲラ刷りをする。 ・ スタイル ・ 使用活字の大きさ、種類 4 名刺の印刷をする。 (1) 名刺印刷の練習をする。 (2) 受注印刷の準備をする。 (3) 分担して印刷する。 5 納品をする。 ・ 製品の点検 ・ 製品の包装 ・ 納品書の記入と納品 6 後始末をする。 7 反省とまとめをする。 ・ 作業態度など	・ 昨年の製品を中心にいろいろな名刺を見せることで名刺への関心を高める。 ・ 名刺と用箋の違いなどに触れ、名刺が注文されて製品として納めることや名刺の大切さなどにも考えさせる。 ・ 受注生産であるため、納期があることを知らせ、計画表などを利用して大まかな見通しを持たせる。 ・ これまでの学習を基に個人目標や分担などを行う。 ・ 名刺の印刷での注意事項などは毎時間発表させることで意識付ける。 ・ 生徒の実態に応じて名前などを中心に活字拾いなどからも取り組ませる。 ・ インクの濃淡や印字の傾きなど実物を提示しながら考えさせる。 ・ 最初は、生徒の実態に応じてペアを組ませて交互に作業させるなどして相互の良い点や悪い点を気付かせ合わせる。 ・ 作業に慣れてきたら、それぞれの生徒で行わせ、必要に応じて教師が援助を行う。 ・ 慣れてきたら、印刷→乾燥→点検といった分担を生徒たち自身で行わせる。 ・ 製品の良否については、具体的な不良品の提示をし、生徒同士で検討させながら行い、製品の良否の判断に関心を高めるようにする。 ・ 納品書や領収書の記入のほかあいさつの仕方などにも触れ指導する。 ・ 自分だけでなく他の生徒の良い点などについても発表させる。	・ 名刺の見本 ・ 工具や機械オイル ・ 活字 ・ 名刺用紙 ・ 工程表 ・ 計画表 ・ 不良品見本 ・ 注文受付表 ・ 分担表 ・ 納品書 ・ 領収書 ・ 包装紙	国 4-1, 5 社 5-5 理 5-15 職 5-11 職 4-27 道 4-(4) 職 4-3 5-4 職 4-27 道 1-(3) 道 2-(3) 職 5-23 職 5-2～5 7, 9 12, 14, 18 道 4-(1) 職 5-27, 28 国 5-14 社 5-5 道 1-(5)

題 材	賞 状 の 製 作	月 (時数)	9 ～ 1 月 (40時間)	
目 標	○ 運動会等で使用される賞状の印刷作業を通して、協力して丁寧に取り組む態度を育て、自分の分 担された作業を最後までやり通す態度を養う。			
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 賞状の印刷について話し合う。 ○ 昨年の印刷の見本を調べる。 ・ 賞状の種類・用途 ・ 印刷の形式 (組み方) ・ 活字の大きさや種類		・ 昨年度の賞状やいろいろな賞状を提示し、賞状の用途や活字の違いなどに気付かせる。 ・ 賞状が運動会や持久走大会で使われることに触れ、製作への意欲を高める。	・ 昨年の賞状 ・ いろいろな賞状	国 4-1, 5 社 5-5 理 5-15 職 5-11
2 作業計画を立てる。 ・ 作業工程 ・ 分担と準備 ・ 個人目標 ・ 気を付けること		・ これまでの作業を基に工程を思い出させ、製品の納期を考えながら計画を立てさせることで見通しを持たせる。 ・ これまでの作業を振り返らせながら、それぞれの目標を立てさせる。	・ カレンダー ・ 計画表	職 4-27 道 1-(3)
3 賞状を印刷する。 (1) 印刷の準備と練習をする。 (2) 作業分担をする。 (3) 印刷をする。 (4) 製品の整理をする。 ・ 点検と保管		・ 賞状用紙の特性や不良品の例を提示しながら気を付けることなどを考えさせ、実際の練習を行う中で、具体的に指摘しながら分からせる。 ・ 特にインクをまんべんなく練り、伸ばすように気を付けさせ、一枚ずつ丁寧に扱うように言葉掛け等を行う。 ・ 印刷の後、乾燥する前に点検の係などを置き、できるだけ不良品が出ないように協力して作業が進むように考慮し分担をする。 ・ 運動会用の賞状は納品するので乾燥が十分になり次第点検を生徒自身に行わせる。また、持久走大会などの分は丁寧に包装し保管させる。	・ 目標カード ・ 活字 ・ 込 ・ インテル ・ 賞状用紙 ・ インク ・ 包装用の 帯封用紙	職 4-21～29 職 5-40 道 2-(3) 職 5-3～5 7, 13 職 4-6～15
4 納品をする。 ・ 製品の確認 ・ 納品		・ 後始末は全員で取り組ませ、返版すべき活字等は生徒の実態に応じて扱うようにする。	・ 工具類	職 5-36
5 後始末をする。 ・ 機械や器具の手入れ		・ 後始末は全員で取り組ませ、返版すべき活字等は生徒の実態に応じて扱うようにする。	・ 機械用オイル	道 1-(5) 道 4-(4)
6 反省とまとめをする。 ・ 個人目標 ・ 出来高		・ 個人目標を基に反省させ次の題材への意欲につながるようにする。	・ 出来高表 ・ 目標カード	職 5-15 社 5-5 道 1-(5)

題 材	年 賀 状 の 製 作	月 (時数)	11～12月 (50時間)
目 標	○ 受注による年賀状の製作を通して、納期を守って作業を進めるとともに、お互いに協力し合い、製品の良否を確かめながら丁寧に、分担された作業を最後まで果たそうとする態度を育てる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 年賀状の印刷について話し合う。 (1) 年賀状について調べる。 ・ 印刷のスタイル ・ 今年や来年の干支 (2) 昨年の見本を調べる。 ・ 版の組み方 ・ 使用活字 2 作業計画を立てる。 ・ 納期と作業工程 ・ 印刷目標や個人目標 3 年賀状の見本を作る。 ・ 印刷スタイルと活字の種類 ・ 見本と案内 4 年賀状の印刷をする。 (1) 印刷の準備と練習をする。 ・ 自分の年賀状 (2) 受注の準備をする。 ・ 受付名簿と注文受付 ・ 原稿の整理 ・ 納品書と領収書 (3) 受注印刷をする。 ・ 作業分担 5 納品をする。 ・ 製品の点検と包装 ・ 納品書や領収書の記入 ・ 注文主への納品 6 後始末をする。 7 反省とまとめをする。 ・ 目標の反省 ・ 出来高と売上高	・ 昨年度の製品やいろいろな年賀状などを提示することで関心を高めさせるとともに印刷されている内容やスタイルなどにも目を向けさせる。 ・ 名刺や賞状などと比べることで年賀状の印刷に使われる活字や版の組み方などについても知らせる。 ・ 年賀状についても納期があることや乾燥に時間を要することなどに触れながら、作業計画を立てさせる。 ・ 印刷会社の見本なども参考にさせながらあいさつ文やイラストなどの組み合わせを考えさせる。 ・ 自分の年賀状を素材にして製作させることで印刷への関心を高める。 ・ 原稿は、見本のスタイルごとに整理させ所定の位置に保管させる。 ・ 各工程の作業の要領を確かめ合い、一人一人が作業分担を確実に果たそうとする目当てを持たせる。 ・ 安全や製品の出来ぐあいに注意しながら作業するように随時言葉掛けなどの援助を行う。 ・ 針の位置や胴圧、インクの濃淡などに特に目を向けさせる。 ・ 全員ではがきの点検や枚数かぞえをした後、包装させ納品書に記入させることで協力して取り組んだ喜びを味わわせる。それぞれの作業態度の良かった点などについて話し合わせる。	・ 年賀状の見本 ・ 年賀はがき ・ 活字 ・ カレンダー ・ 年賀状の見本 ・ 印刷案内 ・ 年賀はがき ・ 受付名簿 ・ 印刷計画表 ・ 分担表 ・ 納品書 ・ 包装紙 ・ 領収書	国 4-1, 5 社 5-5 理 5-15 職 5-11 職 4-27 算 5-5 道 1-(3) 職 4-1～12 職 5-2～9 職 5-36 職 5-23, 40 道 4-(1) 道 4-(4) 職 5-40 職 5-13～15 職 5-20 職 5-23 算 4-1 社 5-5 道 1-(5)

題 材	シルクスクリーンによる製作	月 (時数)	9～3月 (20時間)
目 標	○ シルクスクリーンによるのれんや状差しなどの小物の製作を通して、友達と協力して最後まで取り組みもうとする態度を育てるとともに、シルクスクリーンに関する基礎的技能を習得させる。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 シルクスクリーンによる製品について調べる。 ・ Tシャツ ・ 状差し ・ のれん ・ ランチョンマット など 2 シルクスクリーンの製作工程を知る。 ・ デザイン原画 ・ シート作り ・ 着色 ・ 乾燥 3 作業計画を立てる。 (1) 製品を決める。 (2) デザインを決める。 (3) 作業分担と出来高目標を決める。 4 製作をする。 (1) 製作の準備をする。 (2) 作業分担をする。 (3) 製作をする。 (4) 製品の整理をする。 5 後始末と反省をする。 ・ 器具の手入れと後始末 ・ 出来高目標の反省等	・ 生徒に身近なプリントTシャツや家庭の状差しなどを実際に提示し、製作への関心を高める。 ・ これまでの手引フート印刷機での製作とは異なることを知らせ、教師が示範したり、実際に組み立てることで工程を理解させる。 ・ 用具の名前などについても随時触れ、理解させる。 ・ 製品は、自分で使ったり、附養まつりで販売することを知らせ、作業への意欲を高める。 ・ 製作の期間を調べさせ、その中での計画や製品、作業分担は、個々の特性等を考慮しながら出来るだけ生徒の話し合いで決めさせ、作業への関心を高める。 ・ 製作については、製品として汚れたり破れたりしないように気を付けさせ、一枚ずつ丁寧に組み立てる。 ・ 用具の数を考え、生徒同士がお互い順番にしたり、数え合いながら取り組んだり出来るようにペアを組ませるなどの工夫をする。 ・ 製品は、汚れないようにビニール袋などで包装し、整理させる。 ・ 器具の手入れなど全員で行わせる。 ・ 出来高を調べたり、製品の一部を持ち帰らせたりして製作の喜びを味わわせる。	・ プリントTシャツ ・ 状差し ・ ランチョンマット など ・ 工程表 ・ 作業計画表 ・ 原画用紙 ・ ペン ・ シルクスクリーンの用具 ・ インク ・ アイロン ・ ビニール袋 ・ 出来高表	国 4-1, 5 社 5-5 理 5-15 職 5-11, 25 職 4-27 美 5-4 算 5-5 社 5-5 道 2-(3) 職 5-2～7, 11, 13 道 1-(3) 職 5-31, 36 生・手 3-7, 8 道 4-(4) 職 5-27, 28 職 5-1 社 5-5 道 1-(5)

高等部 共通作業

題材	さつまいもの栽培	月(時数)	5月(4時間), 9~10月(4時間)
目標	○ さつまいもの栽培を通して自然に対する関心や理解を深めるとともに、友達と協力しながら進んで働こうとする態度を養う。		
主な学習活動・内容	留意点	準備	関連内容
<p>1 さつまいもの栽培計画について話し合う。</p> <p>・ 栽培場所 ・ 栽培方法</p> <p>2 畝づくりをする。</p> <p>(1) くわや耕うん機で耕す。</p> <p>(2) 施肥をする。</p> <p>(3) 畝をつくる。</p> <p>3 植え付けをする。</p> <p>(1) 苗を畑に植え付ける。</p> <p>(2) 定植をする。</p> <p>・ 水平植え ・ 船底植え</p> <p>・ 斜めさし</p> <p>(3) かん水や日よけをする。</p> <p>・ わらや枯草</p> <p>4 植え付け後の管理をする。</p> <p>・ 除草と追肥 ・ 土寄せ</p> <p>5 収穫をする。</p> <p>6 反省をする。</p>	<p>・ 実物や栽培の様子の写真などを提示してさつまいもの栽培への関心を高める。</p> <p>・ くわによる耕起は十分に間隔をとり、危険がないようにする。</p> <p>・ 学年別に畝を分担し、自分たちの畑であることを意識させ、協力して取り組ませる。</p> <p>・ 定植しやすいようにロープや竹の利用を工夫する。</p> <p>・ 能力に応じて仕事をさせ、教師の補助は最小限にして自分で植えたという喜びを味わわせる。</p> <p>・ 二人一組になって作業をさせ、協力して作業を進めさせる。</p> <p>・ いもづると雑草の区別をつけるために雑草に木灰をまいておき除草しやすくする。</p> <p>・ いも掘りをして、いもを食べたりして収穫の喜びを味わわせる。</p> <p>・ 収穫したいもを附養まつり等に出品させ働くことの喜びを味わわせる。</p>	<p>・ さつまいも</p> <p>・ 栽培計画表</p> <p>・ 耕うん機</p> <p>・ くわ</p> <p>・ 鶏ふん</p> <p>・ 苗</p> <p>・ 耕うん機</p> <p>・ くわ</p> <p>・ ロープ</p> <p>・ 竹</p>	<p>職 5-1, 5-2 3, 12</p> <p>生・自 3-2</p> <p>職 5-5</p> <p>職 5-6</p> <p>数 5-4</p> <p>職 5-15</p>

[illegible]

題 材	校 内 の 除 草	月 (時数)	4 月 (4 時間) 6 ~ 7 月 (4 時間), 2 ~ 3 月 (4 時間)
目 標	○ 校庭や花園の除草作業を通して、自分たちの学校を美しくしようとする態度を養う。		
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 作業の計画を話し合う。 (1) 除草の必要性を知る。 (2) 除草の方法を知る。 (3) 作業の分担をする。 2 除草作業をする。 (1) 道具の準備をする。 (2) 除草をする。 (3) 草を運ぶ。 (4) 整理をする。 3 後始末をする。 4 反省をする。	<ul style="list-style-type: none"> 環境の美化のために、除草は必要であることを理解させる。 学年を中心として作業場所を割り当てる。 リーダーを中心に必要な道具を準備させる。 見通しを持ちにくい生徒には、作業の範囲を枠を使って示すなど、見通しをもって取り組ませるように工夫する。 生徒の実態に応じて、一輪車を使った運搬作業を行わせる。 集めた草は所定の場所に捨てさせる。 使った道具をきれいに洗って元の場所に整理して保管させる。 きれいになった花園や畑を見せ、成就感を味わせるとともに、学校を美しくしようとする意識付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配当図 ・ 一輪車 ・ 芝刈り機 ・ 枠 ・ ほうき ・ 育苗箱 	道 4-(6) 職 4-1 理 5-8 職 5-3 道 4-(4) 職 5-1, 6 職 4-12 職 5-15 保 5-4

題 材	校 内 の 降 灰 除 去	月 (時数)	9～10月 (4時間) 11～1月 (4時間)	
目 標	○ 校内の降灰の除去作業を通して、勤労を重んじ自分たちの学校を進んで美しくしようとする態度を養う。			
主 な 学 習 活 動 ・ 内 容		留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 作業の計画を話し合う。 (1) 灰取りの仕方を知る。 (2) 作業の分担をする。		<ul style="list-style-type: none">学校の美化や衛生のために灰取りが必要であることを理解させる。学年を中心に作業場所の分担をする。また、袋係、スコップ係などの役割分担をさせ、役割意識を高める。	・ 配当図	理 5-22, 23 職 4-1 5-3 道 4-(6) 3-(1)
2 灰取り作業をする。 (1) 道具の準備をする。 (2) 灰取りをする。		<ul style="list-style-type: none">灰取りに必要な道具を各学年の係に準備させる。ほこりが舞い上がらないように注意して作業に取り組ませる。また、マスクも必要に応じて付けさせるなど衛生面にも十分注意させる。袋に入れ過ぎないように注意させる。	・ 一輪車 ・ 灰袋 ・ スコップ ・ リヤカー	道 4-(1) 職 5-1, 6 10
(3) 灰を運ぶ。 (4) 整理をする。		<ul style="list-style-type: none">生徒の実態に応じてた灰取り機を使わせる。友達と協力して作業に取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none">校外の灰置き場に灰を運ぶ際は、交通安全に十分気を付けさせる。運んだ灰が散れないように整理をさせる。	・ 灰取り機	職 5-7, 18
3 後始末をする。		<ul style="list-style-type: none">使った用具を洗って元の場所に保管させる。		職 5-15 社 5-27
4 反省をする。		<ul style="list-style-type: none">作業の後を見せて成就感を味わわせるとともに、学校を美しくしようとする意識付けを行う。うがい、洗顔、手洗をさせる。		保 5-4

題 材	校内の清掃（荒天時）	月（時数）	随 時
目 標	○ 校舎内の清掃作業を通して、勤労を重んじ自分たちの学校を進んで美しくしようとする態度を養う。		
主な学習活動・内容	留 意 点	準 備	関 連 内 容
1 作業の計画を話し合う。 (1) 作業内容を知る。 (2) 作業分担をする。	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容や作業方法を図や実演等で理解させる。 作業内容は、その時期に必要な作業を設定する。 学年を中心に作業場所を分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明図 	道 4-(6) 職 4-1 職 5-3
2 清掃作業をする。 (1) 道具の準備をする。 (2) 清掃作業をする。 <ul style="list-style-type: none"> 窓拭き 階段、壁の清掃 特別教室の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに必要な道具を準備させる。 安全に気を付けさせる。 ぞうきんやほうきの使い方も必要に応じ指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ぞうきん バケツ ほうき 	道 4-(4) 職 4-5, 17 18
3 後始末をする。	<ul style="list-style-type: none"> 使用した作業用具を点検し、元の場所に保管させる。 	<ul style="list-style-type: none"> モップ 	
4 反省をする。	<ul style="list-style-type: none"> 作業の後を見せて成就感を味わわせるとともに、学校を美しくしようとする意識付けを行う。 		保・健 5-4

